



# 志津南 news

志津南ホームページ  
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (9/30 現在)  
世帯数 2,223 総人口 6,166 人  
発行  
志津南学区まちづくり協議会  
Tel(fax) 077-507-6496  
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

立命館大学

## 「出あいプロジェクト」

～スクールガード～

去年に引き続き、出あいプロジェクトには2回目の参加となりました。去年も行ったスクールガードに加え、今年も子育て支援にも参加させていただきました。

スクールガードでは保護者の方だけでなく、近隣の方が集まって交通量の多い交差点で子どもを守っているなど、志津南学区は自分の通っている学校のすぐ近くの地域ですが、地域の中での協力した活動には知らないような取り組みが多くあり、たくさんの発見があります。

子育て支援での0歳～3歳児の子どもとの交流は自分自身もとても癒されました。また、お母さん達も同じように子育てに頑張っている人たちと話すことで、お母



さんの交流の場になり、協力して子どもを育てていくという意識が育ちました。

象を受けました。

子育て支援には今でも継続して参加させていただいているので、これからも志津南学区の方々とのつながりを大事にしながらたくさんの発見をしていきたいです。(スポーツ健康科学部3回生 白羽根隼)

愛知県長久手市長湊地区北部自治連(高野晃二会長)が10月28日、志津南学区まちづくり協議会(中原勝一会長)を視察研修に訪れられた。写真。



長久手市では、これからまちづくり協議会を立ち上げようという動きがあり、先進地研修の訪問先として、草津市および志津南学区まちづくり協議会を選定したものです。先方からは9人の自治会連合会長・区長と、長久手市役所職員4人の計13人がみえました。

当方は草津市まちづくり協働部の職員3人と中原会長および妹尾事務局長が対応しました。



## 災害弱者の自助共助学

会のこれまでの経緯と現状のすがたを説明しました。そのあと質疑応答に入り、先方の皆さんから活発な意見が出されました。特に当

若草・岡本西地区自主防災連合会(秋本勉会長)は10月2日、志津南市民センターで「高齢者及び災害弱者避難行動要支援者応援体験研修」を開催、35人(男性15人、女性20人)が参加しました。

自分の命は自分で守り(自助)、地域の問題は地域で解決(共助)を基本として取り組んでおり、その一環の研修として実施しました。研修は4つのグループに分かれ



## 秋の一斉清掃

若草・岡本西地区の一斉清掃が10月16日、若草中央・東・西公園はじめ各町内の児童遊園、緑道などで行われ、753人が参加しました。写真。

約3時間で4つのグループ研修を一巡し、健常者は常に高齢者並びに災害弱者に目を向け、コミュニケーション並びに行動を実行することが「やさしいまちづくり」に役立つ事を再認識しました。

予定時間を超過するほどの熱心な質疑応答があり、まだまだ聞きたいことがあるという感じを残し、バスに乗り込みました。

協議会が自治連合会を解散してから発足したというところが興味を引いたようでした。

今回の研修には草津市社会福祉協議会より講師3名、また手話ボランティア「おたまじゃくし」より講師4名、点字ボランティア「あゆみ会」より講師3名のご協力を賜わり実施しました。本当に有難うございました。

趣味悠々

油絵 「立木神社の御神木」  
縦 120センチ  
横 95センチ  
制作 辻 迪子=追分南3丁目



ひとこと 立木神社の御神木には、心を安らかにする大きなパワーを感じます。身近に、パワーを感じたく、絵に描きとめました。ご縁があり、追分南会館に寄贈することになりました。皆様にも御神木のパワーを感じて頂ければ嬉しいです。

創立30周年記念運動会  
力強い演技に大きな拍手



志津南小学校(葛本茂樹校長)では10月1日、創立30周年記念「南っ子わくわく運動会」が行われました。前日から心配された天候は、早朝のまとまった雨で開催が危ぶまれる状況でし

たが決行となり、朝からグラウンドを整備30分遅れでスタートしました。開会式では「涙あり笑いあり 30年目も力を合わせてか

けぬけよう」をスローガンに、縦割りチームで集合。校長先生から「みんなの期待に応えられるよう頑張ろう」との言葉と、福西美奈PTA会長の激励の挨拶。そして各団がそれぞれのチ

ームカラーを大声で唱和しました。昨年までの南っ子ストレッチに代わりラジオ体操で体をほぐし競技がスタート。各学年の徒競走や団体競技が続ぎ、晴れ間も出始めた頃、3・4年生による「大漁ロックンロール」の力強い踊りに会場も盛り上がりました。クライマックスの

くるみ保育園でも明るく楽しく

第4回緑波くるみ保育園(服部登志夫園長)の運動会が10月8日、自然に囲まれた広い園庭で行われました。秋の変わりやすい天候の

5・6年生による組体操「Never forget 志津南く夢を追いかけて」、30周年を記念する力強く素晴らしい演技に大きな拍手がおくられました。写真。



下でのスタートとなりましたが、みんなの心配を吹き飛ばした。写真。

飛ばすような元気な園児の入場行進に、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたち観客もカメラやビデオを手に顔が緩みっぱなしでした。服部園長の激励の言葉に続き、くるみ保育園歌を大きな声で歌った後、年長児全員で選手宣誓をしました。準備体操の「ぼくんちのチャボ」では、明るく楽しい音楽に合わせて、園庭を元気に動き回りました。かけっこに続き年長児の「サーキット」では、鉄棒・マット・跳び箱と日頃の練習の成果を披露、胸を張る姿に観客席から大きな拍手が送られました。

その後も可愛くてお茶目なお遊戯と続き、最終種目のロコモーションでは、親子で、そして先生も一緒に楽しく踊りました。

追分南が大活躍

追分南町内会(高岡昭義会長)は9月25日、追分町グラウンドで追分町内会と共催の親善レクリエーション大会を開催しました。当日は好天に恵まれ、大勢の参加者や応援の方で賑わいました。今年も追分南町内会の丸尾2組が優勝、組対抗玉入れ合戦で優勝し



たフォレストロースは総合3位入賞、そして、組対抗リレーではユートピアが優勝し、大活躍でした。

子育てのセミナー



すこやかセミナー 子育てのセミナー 幸信委員長)は10月15日、志津南市民センターで「すこやかセミナー」を開催しました。写真。

当日はたくさんの方に参加いただきました。お世話になった志津南小PTAをはじめとし、関係者の皆様にはこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

防犯を呼びかけ



交通安全委員会(堀切あつ子委員長)は、10月22日に地域防犯・啓発活動を実施しました。委員会メンバー12人は、フレンドマート追分店、スター・グリーンヒル店前で、防犯や交通安全を呼びかけ、ポケットテ

10時の配布スタート時には少なかった客も次第に増え、明るい呼びかけに、皆さんに快く受け取ってもらいました。中には、「自転車保険が義務付けされたのですよね」といった会話も飛び出し、交通安全に対する意識の高さが伺える一面もありました。

交通安全委員会(堀切あつ子委員長)は、10月22日に地域防犯・啓発活動を実施しました。委員会メンバー12人は、フレンドマート追分店、スター・グリーンヒル店前で、防犯や交通安全を呼びかけ、ポケットテ

11時過ぎには1000個のティッシュもなく無事に終了しました。これからも短くなり、年末を迎えます。地域の意識で交通安全・防犯意識は向上します。良い一年を締めくくりますよう御協力をよろしくお願ひします。

### 人権 共に生きる大切さ学ぶ

志津南市民センターは、10月29日、草津市同和教育啓発講師団の上寺和親さんを講師に迎え「共に生きる



豊かな世界」と題して第一人権講座を開催し、46人が参加しました。写真は、はじめに「人権問題は人間関係から」と参加者同士で互いに名乗りながら握手をする「つながりジャンケン」を行いました。

その後、私たちの「いのち」のつながりを考えさせられる詩・歌の紹介があり、参加者全員で「ふるさと」を合唱しました。また、水平社宣言から人間の尊厳、自分の立場を見定め、振り返る自己凝視の大切さのお話をされました。

最後は詩人藤川幸之助さんの詩集「命が命を生かす瞬間」より「お襦袢(おむつ)」の詩を紹介され、講師自身の母を介護した経験から、出来る、出来ないの物差しで相手を見ることは人間の尊厳からかけ離れてしまふ。人を量ることは命を量ることであるが、仏教に「無量寿(むりょうじゅ)(命を量らない)」という言葉があることを紹介し、「支える側が支えられる、教える側が教えられる、育てる側が

育てられる」のだということとを話されました。

参加者からは「ものの見方、考え方を变えるきっかけになった」「自分が子ども

### 城下町郡上八幡を満喫

やすらぎ 館外研修



志津南やすらぎ学級は、10月26日に、館外研修「郡上おどりと郡上八幡散策」を実施しました。天候にも恵まれ、市民センターを出発した25人の参加者は、片道約2時間半をかけ、秋晴れの美しい郡上八幡の街並みに到着しました。写真は、郡上八幡博覧館では、四百年以上の歴史を持つ郡上おどりを鑑賞しました。



恒例のワンファミフェスは、午前中は集会所で、高島災害支援ボランティア「なまず」から2名の講師を招き、「いざ」という時、自助・共助」というテーマで講演。地震災害時の心構えを聞きました。



<7>

「前は病院で薬貰えたのに今は薬局に行かんらんで、かなんわ」とぼやく声を時々耳にします。

ところが西洋では「病院で診察を受け、医師発行の処方箋を町の薬局に持って行き薬を貰う」方式の医薬分業が昔から普通なのです。その昔、医師が薬を持つと主侯や重臣が暗殺されかねず、ために西洋では医薬

分業制が数百年前から採用され、一般化したとする説が有力です。一方、日本では昔から医師は「薬師」(くすし)とも呼ばれ、診察・治療・薬の処方・投薬・薬の供給管理のすべてを担っていました。

### 医薬分業

明治初期に公的な薬剤師資格が生まれましたが、当時は西洋薬の国産自給が国策で、彼等は主として薬の製造・流通に携わりました。

薬剤師が近代化した大病院に勤めるのは概ね20世紀以降で、その後も長く医師

の補助が主たる業務でした。平成に入り、国は医療事故防止と医療費(昨年40兆円)の25%を占める薬剤費削減の一環として、外来処



方箋を院外薬局に出す欧米並みの医薬分業を奨励、現在その普及率は目標の7割前後に達し、それに伴い薬剤師業務の重要性と責任も

増すようになりました。医薬分業の主な利点は①医師が診察・治療に専念できる②治療内容の透明化が図れる③病院での過剰な投薬をなくせる④薬剤師による処方箋の確認や副作用の有無を対面・対話で確認でき、服薬指導によって事故を防げる⑤複数の病院で受診している患者の処方箋が点検できる⑥薬局で投薬履歴を保管し活用できる⑦医療のグローバル化に資する、などが挙げられます。

少し回り道になりますが、かかりつけの調剤薬局を極力利用なさって下さい。(S・O)

### 右見て、左見て



草津栗東交通安全協会志津南支部(佐々木奉昭支部長)はアヤハ自動車教習所の協力を得て10月31日、緑波くるみ保育園児145人を対象に同園で交通事故防止の啓発活動を行いました。同教習所のスタッフ4人は園内サロンの園児たちに

ビデオで正しい横断歩道のわたり方を見せた後、同支部の女性部も加わり信号機を使って実施指導しました。園児たちはマスコットの熊さんと一緒に真剣に「手を挙げて、右見て、左見て」の正しい渡り方を学びました。写真は、

若草一丁目町内会(今井美喜男会長)ワンファミリィフェスティバルが10月9日に開かれました。高齢化が進み、自然災害も多発するなか、住民同士が助け合う「共助」の環境づくりは、まず、顔を知っ

た川の中に鯉が優雅に泳ぎ、当時の面影を残す街並みに、白い郡上八幡城がとても美しく映えていました。最後に、それぞれ名産品のお買い物も楽しみ、思い出に残る日となりました。

で話すことから、という目的で始まり、今年で3回目、秋の恒例行事になった感があります。46世帯、82名が参加しました。午前中は集会所で、高島災害支援ボランティア「なまず」から2名の講師を招き、「いざ」という時、自助・共助」というテーマで講演。地震災害時の心構えを聞きました。

# 感謝を込めて収穫祭



志津南小学校(葛本茂樹校長)では、10月7日、二年生が緑化ボランティア、民生委員児童委員、安全パトロール員ら総勢20人を迎えて収穫祭を行いました。写真。

緑化ボランティアの方々には、畑の開墾から水やり、草引き、肥料やりなど、また

# バザー売上金を熊本地震義援金に



ふれあいハウス「絆」は10月23日、第4回チャリティバザーを若草六丁目児童遊園で開催しました。写真。

開店と同時に大勢の方にお越しいただき、大盛況に開催することが出来ました。プティックをされていた方からの衣類をはじめ、食器や衣料などの提供品のほか、手作りのお店4店、山野草、野菜等々が並びました。

また、「絆」の室内には、

色鉛筆画の力作、愛らしいツールペイント、水彩画、刺繍など多くの作品を掲示しました。コーヒーを楽しみながら鑑賞される方、談笑を楽しまれる方、また買った衣服を友達同士、鏡で確認し合ったり、内も外も大変にざわいました。

今回の売上金5万円は市社協を通し熊本地震義援金として寄付させていただきます。

移動して、収穫したサツマイモの入った蒸しパンを食べました。「子どもたちと一緒にいただく」とより一層おいしいですね。」との感想も。帰りには、子どもたちが名残惜しそうに玄関で見送

# 楽しみながら琵琶湖を学ぶ



地域協働台校推進委員会(斎藤充浩委員長)は10月22日、秋の館外研修「琵琶湖のことを学ぼう」を開催し、小学生26人と地域の大人13人が参加しました。

この日はまず、バスで大津市南郷の「水のめぐみ館アクア」へ行き、豪雨体験をしました。滝のようなシャワーの下に傘をさして立ち「世界一の豪雨」を体感した子どもたちはあまりの強さに驚きはしゃいでいました。写真。このあと、琵琶湖の生態系や治水の歴史について学びました。

次に、それぞれの教室に

船内ではガイドさんによる解説もあり、瀬田川と琵琶湖の境目や琵琶湖に関するいろいろな知識を得ることができました。また、瀬田川に架かる橋を下から眺めるなど普段と違う光景に子供たちも興奮しているようでした。

最後に、大津市科学館に向かいプラネタリウムやクイズラリーを楽しみました。プラネタリウムでは夏や秋の星座などの天体について学び、この中での問題に子供たちは元気に答えていました。館内見学ではクイズラリーをしながら、さまざまなお楽しみがありました。

追分南町内会「元氣くらぶ」は10月21日、12時より追分南会館にて参加者28人が豚汁とおにぎりで昼食会を開催しました。

おにぎりは有名な某おにぎり屋さんから購入し、豚汁は会員の一方の方と民生委員さんが作りました。

おこめのぎっしり詰まった美味しいおにぎりを頬張り、温かい美味しい豚汁に舌鼓を打ち、皆大変満足していました。

また、その後、西沢良子さんを迎え、風呂敷活用術

# 風呂敷活用術に大はしゃぎ



追分南町内会「元氣くらぶ」は10月21日、12時より追分南会館にて参加者28人が豚汁とおにぎりで昼食会を開催しました。

おにぎりは有名な某おにぎり屋さんから購入し、豚汁は会員の一方の方と民生委員さんが作りました。

おこめのぎっしり詰まった美味しいおにぎりを頬張り、温かい美味しい豚汁に舌鼓を打ち、皆大変満足していました。

また、その後、西沢良子さんを迎え、風呂敷活用術

追分南町内会「元氣くらぶ」は10月21日、12時より追分南会館にて参加者28人が豚汁とおにぎりで昼食会を開催しました。

おにぎりは有名な某おにぎり屋さんから購入し、豚汁は会員の一方の方と民生委員さんが作りました。

おこめのぎっしり詰まった美味しいおにぎりを頬張り、温かい美味しい豚汁に舌鼓を打ち、皆大変満足していました。

また、その後、西沢良子さんを迎え、風呂敷活用術

さまざまな観察や実験を楽しみました。

この日は楽しみながらいろいろな体験をして沢山のことを学ぶことができ、有意義な一日となりました。

# 自慢の作品募集

志津南市民センター(公民館)は、次の要領で志津南シニアのつどい事業として「みんなの作品展」を開催します。皆さんの趣味をいかしたものや自慢の作品を出品してください。

▽開催 12月21日(水) 24日(土) 9時~17時  
(23日は祝日のため休館、24日は午前中のみ)

▽場所 同市民センター会議室

▽内容 手作り作品や写真、絵画など

▽申し込み・問い合わせ 詳細は市民センターへ。電話(563) 62006

# 優秀作品選出

あいつつ運動 青少年育成委員会(永田幸信委員長)は、小学生児童を対象に7月16日~9月9日までの間「あいつつ運動啓発作品」を募集したところ、総数475件の応募作品がありました。

10月8日開催の選考委員会で厳正な審査の結果、絵葉書では山本彩生さん(六年)の「あいつつはハートをつなぐ愛言葉」、田慮ひよきさん(四年)の「あいつつは心と心をつなぐよ」、標語では北山莉央さん(五年)の「あいつつで心と心があった

# みなくさまつり参加

ふれあい推進委員会は12月4日(日)開催の「第6回みなくさまつり」に「ダンボール迷路」で参加します。多数のご来場をお待ちしております。